

Ⅵ 令和4年度「文化芸術による子供育成総合事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
----	------	----	--------

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分とB区分の両方
------	------------

複数申請の有無(該当する方を選択してください。)

複数申請の有無	無
---------	---

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

その他を選択した場合	
------------	--

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじんうめわけんのうかい 公益財団法人梅若研能会		
代表者職・氏名	理事長 梅若 万紀夫(万三郎)		
制作団体所在地	〒151-0066		
	東京都渋谷区西原1丁目4番2号		
電話番号	03-3466-3041	FAX番号	03-3466-3823
ふりがな 公演団体名	こうえきざいだんほうじんうめわけんのうかい 公益財団法人梅若研能会		
代表者職・氏名	理事長 梅若 万紀夫(万三郎)		
公演団体所在地	〒151-0066		
	東京都渋谷区西原1丁目4番2号		
制作団体 設立年月	昭和49年10月11日財団法人 平成24年4月1日公益財団法人認定		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	理事長 梅若万紀夫 常務理事 塚本忠男 理事 11名 監事 瀧本頼明 池田直樹 評議員 10名 事務局常勤 2名	梅若万三郎門下能楽師 職分 2名 準職分 12名 研修生 2名 師範 2名	
事務体制の担当	専任	本事業担当者名	塚本 忠男
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	塚本 忠男

制作団体沿革	梅若研能会の前身である梅若万三郎家の歴史は長く、およそ600年に遡る。発祥については諸説あるが、左大臣橘諸兄を祖とする。初世梅若万三郎は五十三世実の長男だが、弟の六郎に本家を譲り、現在の万三郎家を起こす。昭和3年1月研能会を設立し、以降昭和19年戦争激化のため休会するまで研能会の演能回数は155回を数えた。昭和21年染井松平家能舞台で再開し、以後今日まで毎月公演を継続している。昭和49年10月に財団法人に改組し、平成24年4月内閣府の公益財団法人の認定を受ける。 ● 海外公演もベルギー、フランス、ドイツ、ラトビア、イギリス、ロシア等、多くの国々で催行してきた。令和元年は久しぶりにドイツ、スイスの公演が実現。チューリッヒ、バーゼル(スイス)ベルリン、ケルン(ドイツ)の4公演でいずれも好評を博した。 ● 現理事長は、梅若万紀夫(三世万三郎)			
学校等における公演実績	● 平成28年から「文化芸術による子供育成総合事業」に制作及び出演団体として参画している。 ● 平成21年から令和元年まで、幼児・小学生を対象に「事前講座付 親と子の能楽教室」を開催してきた。令和元年の演目は「鞍馬天狗」で、花見場面の稚児役に8名の小学生を当て、共演した。 令和2・3年度はコロナ禍の自粛措置により公演を中止をした。 (注)この事業は、一般財団法人伝統芸術振興会から承継 通算40回。 ● 青山学院初等部 3年ごとにワークショップ、能公演を開催。前回は平成30年11月に能「土蜘蛛」、狂言「盆山」を国立能楽堂で催行した。			
特別支援学校における公演実績	● 平成22年 埼玉県立本庄特別支援学校 ● 平成23年 京都市立鳴滝総合支援学校 ● 令和元年6月 青森県立八戸第一養護学校 (令和元年6月26日(水)実施) * 青森県立八戸第一養護学校は、小中高の一貫校で重度の障害をもつ生徒もいるが、車椅子の生徒が多い学校。車椅子の生徒に舞台体験させたい校長先生の意向を踏まえて、源頼光役は車椅子、胡蝶役は歩行に杖を使う生徒を選び実技指導をした。その結果、両名とも不安を抱えながらも立派に舞台を勤め上げた喜びと充実感を持ったようである。 本公演には、重度障害の生徒も含めて全校生徒が参加鑑賞した。 先生がマンツーマンで生徒に付き添う光景は、ただただ頭が下がる思いであった。			
参考資料の有無	A	申請する演目のチラシパンフレット等	有	
		申請する演目のDVDまたはWEB公開資料	有	
		※公開資料有の場合URL		
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
		PW:		
	Aの提出が困難な場合	今回申請する演目に近い演目で公演の様子がわかる内容のDVDまたはWEB公開資料		
		※公開資料有の場合URL		
		※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
	PW:			

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 公益財団法人梅若研能会 】

対象	○	小学生(低学年)	○	中学生
	○	小学生(中学年)		
	○	小学生(高学年)		
企画名	たいいけんから学ぶはじめての能			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	● 能「土蜘蛛」 作者不詳 5番目物 典拠 平家物語(剣巻) ● 狂言「痺(しびり)」和泉流 (大蔵流 山本家は痺痺と表記)			
著作権		制作団体が所有	制作団体以外が所有する事項が含まれる	(制作団体以外が所有する事項が含まれる場合) 許諾状況
演目概要	能「土蜘蛛」のあらすじ 源頼光が原因不明の病に伏していると、侍女の胡蝶が薬を持って見舞いに来て励ますが思い沈むばかり。やがて夜更けに頼光のもとに怪しげな僧が現れ、蜘蛛の糸を投げかけるが、頼光に切られて逃げ去る。 頼光の家来(独武者)が駆けつけ、血の痕を追うと葛城山に辿り着く。すると岩陰から土蜘蛛の精が現れ、蜘蛛の糸を投げて頼光の家来(独武者)をさんさんに苦しめるが、最後は切り伏せ退治される。 土蜘蛛は、樹木から地下に向かって巣を作り、虫を絡め取って食べる蜘蛛の一種。 「土蜘蛛」とは、昔からその土地に住んでいて、新しく支配者になった大和朝廷に従わなかった人たちのこと。 ● 「土蜘蛛」は「羽衣」と並んで、初心者にわかりやすい代表的な人気演目です。ストーリーも簡潔で、頼光と怪しい僧、独り武者との切り組など場面展開の面白さ。また、緊迫感のなかで放物線を描いて次々と投げられる蜘蛛の糸の美しさがみものです。 ● 典拠(よりどころ)が「平家物語・剣巻」で、源頼光の武勇伝説と中央政権の支配を巡る歴史的事実が結びついた演目であり、本事業の目的である参加、共演、体験を通じて能楽への興味と関心に適した演目です。 ● 生徒の参加、共演、体験として、「胡蝶」と「頼光」の二役を生徒に共演してもらいます。セリフを短くして覚えやすくする、後見役を付けてサポートする等々の工夫を凝らし、安心して共演できる態勢を整えます。 狂言「痺(しびり)」のあらすじ 急に客が来ることになったので、主人は太郎冠者に和泉の堺まで肴を買いに行きように命じる。太郎冠者は行きたくないので、仮病をつかい「しびれ」が切れたと大げさに痛がる。主人が「まじない」で直そうとすると、太郎冠者は自分には効かない、この「しびれ」は親から譲られたものだといふ。仮病に気づいた主人は、伯父から使いが来て、今夜ご馳走をするから太郎冠者も同行するようにといわれたが、太郎冠者が「しびれ」で動けないので次郎冠者を連れていくという。太郎冠者はそれを聞いて、せっかくのご馳走になる機会を逃しては・・・自分の「しびれ」は宣命をふくめれば治ると言い出し、治ったと飛び跳ねる。主人がそれなら堺へ行くと命じると、また「しびれ」が起こったと言って主人に叱られる。			
演目選択理由	● 生徒が参加、共演、体験を通じて、能楽への興味と関心を持つことを演目選択の基準にしている。 ● 土蜘蛛」は、ストーリーも判りやすく、場面展開も華やかで、始めて能を観る生徒たちに適した演目です。 ● 「胡蝶」と「頼光」の二役を生徒に共演してもらうため、セリフを短くして覚えやすくし、また、後見役を付けてサポートする等々、共演できる態勢を整え易い。			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	● 胡蝶と頼光の役を生徒2名が装束を付けて能楽師と共演・体験します。 ● 太鼓を打ってみよう。代表生徒6名から2名を太鼓方の能楽師が指導します。 ● 全校生徒も指導に合わせてべち捌きの所作をします。 ● 残りの代表2名が舞台上がり、囃子に合わせて謡うリーダー役となります。 ● 公演の直前稽古で、詞章を囃子にあわせて能楽師とともに謡います。(全校生徒) 公演時も地謡(コーラス)とともに生徒全員が合唱します。(全校生徒) (注)コロナの感染状況により、謡を手拍子に変更することもある。			
出演者	●シテ方 梅若万三郎・梅若万佐晴・梅若紀長・梅若久紀・中村裕・青木一郎・遠田修・伊藤嘉章・加藤眞恒・八田達弥・長谷川晴彦 梅若泰志・古室知也・青木健一・梅若雅一・根岸晃一・中村政裕・梅若紀佳・梅若志長 以上19名 (この中から公演期間によりシテ方11名を選定する。) ●ツキ方 野口能弘・野口琢弘・梅村昌功・村瀬提・村瀬慧 唯方 成田寛人・栗林祐輔・横宅駿・田邊恭資・飯富孔明 島山直也 住駒充彦・岡本はる奈・船戸昭弘・大倉慶之助・大倉栄太郎 亀井洋佑・大川典良 徳田宗久・林雄一郎 (この中から公演期間により6名を選定する。) ●狂言 高野和憲・深田博治・竹山悠樹・内藤連・飯田豪・中村修一・山本則重・山本則孝・山本則秀・奥津健太郎 奥津健一郎 善竹大二郎 (この中から公演期間により3名を選定する) 以上20名 以上12名 * 下線は無形文化財総合指定保持者			
公演出演予定者数 (1公演あたり)	出演者: 20 名 スタッフ: 1 名 舞台・運搬: 2 名 合 計: 23 名		機材等 運搬方法	積載量: 1.2 t 車 長: 4.6 m 台 数: 1 台

【公演団体名 公益財団法人梅若研能会 】

実施に当たっての 会場条件	実施条件等確認書①をご確認ください。					
会場設営の所要時間 (タイムスケジュール)の 目安	前日仕込み	無	会場設営の所要時間		0.5	時間程度
	到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
	10時50分	11時～11時30分	13時30分 ～15時10分	10分	15時30分 ～16時00分	16時10分
	※本公演時間の目安は、午後1時乃至1時30分からの概ね2時限分程度です。					
児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	10人から200人				
	本公演	10人から600人				
ワークショップ 実施形態及び内容	(能のワークショップ) ・挨拶(よろしくお願ひします。ありがとうございました。) ・能楽について(お能の歴史、シテ、ワキ、お囃子(はやし)、狂言の役割) ● 演目の説明 能「土蜘蛛(つちぐも)」 ● 装束付けの体験 (モデルは先生) ● 能面を付けて歩いてみよう(すり足・視野の狭さの体験) 代表生徒6名 ● 土蜘蛛の「胡蝶(こちょう)」・「頼光(らいこう)」役の選定 学校に候補者6人の選抜を依頼。声の大きさ、所作の習得状態等を参考にして胡蝶・頼光役2名を先生と相談して選定する 他の4名は太鼓の練習及び謡のリーダーに各2名を起用する。 (狂言のワークショップ) ● 公演の狂言終了後、狂言方による所作、動物の泣き声、笑い、セリフの練習等のワークショップを行う。 (本公演前の能の最終稽古) ● 胡蝶と頼光役の生徒が装束の一部を付けて稽古するワークショップと公演までの期間にDVDにより練習するよう依頼しているが、初めて能の体験をするので練度を高めることと、不安を取り除くために設けている。 ● 謡(うた)ってみよう 謡出しのタイミングを含めて詞章を合唱する。(全校生徒) ● 太鼓の稽古 代表生徒2名は、太鼓方の能楽師の指導で太鼓を打つ。他の生徒もバチ捌きの所作をする。 ● 謡の稽古 「土蜘蛛」の詞章を、太鼓のリズムに乗って謡う(全校生徒)代表生徒2名は、地謡として前列に並び扇子の扱いと合唱のリーダー役を努める。 註)コロナの感染状況により、謡を手拍子に変更することもある。					

ワークショップ 実施形態の意図	始めて能を見るので、生徒のレベルで能は「面白い」、「やってみたい」と思うことを目指して参加・共演・体験を採りいれました。 ・挨拶の大切さ 能楽師は始めと終わりには、必ず(「よろしくお願いします。」「ありがとうございました。」)の挨拶をします。挨拶が基本です。 ・能の歴史、能楽堂の構造、演目(能・狂言)のあらましを、テキストにより説明します。 ・演者の役割 シテ、地謡(コーラス)、ワキ、囃子方(笛、小鼓、大鼓、太鼓)、後見、働き等の役割の説明をします。 ● 装束付けの体験 「唐織」という女性用の装束を、男性の教師をモデルとして女性に変身していく過程を生徒の目の前で表演します。 (ワークショップでの装束付) (装束付けから能面を) ● 能面を付けて「摺り足」の体験 「見え難い」、「バランスが取り難い」等を体験します。 ● 「土蜘蛛」の詞章を、囃子に合わせて能楽師とともに謡います。 ● 胡蝶と頼光役の稽古(けいこ) 舞台に登場する場面のセリフ及び所定の位置までの歩行(すり足)、頼光役の生徒は切り組の稽古もします。 セリフ・所作は能楽師がサポートします。 ● 始めて能を見る生徒たちが関心と興味を持つには、「観る」・「聴く」の他に「参加・共演・体験」が効果的と考えています。 【具体的な参加・共演・体験】 ・「胡蝶」と「頼光」の役に生徒を起用 ・「太鼓」2名 「狂言の所作」2名 この2名は、後見、幕上等の「楽屋働き」も体験する ・装束付けのモデルに男性教師 通常装束付けは、楽屋内でするので観客の目に触れることはない。当人にとっても貴重な体験です。
特別支援学校での 実施における工夫点	● 特別支援学校である認識に立ち、学校側から個別(視覚・聴覚)事情の聴取等、入念な打合せをしたうえで対応します。 ● 令和元年、車椅子から重度の障害者も含め100名ほどの生徒がいる養護学校の公演をした。車椅子の生徒への能装束の付け方、頼光と土蜘蛛の切り組み場面での車椅子の移動方等に工夫を凝らし、参加・体験の軸を維持して公演が出来たことは自信になりました。
実施可能時期	実施可能時期スケジュール表をご確認ください。

能楽と 出会う

体育館に
能舞台が
出現!



のう つち ぐも きょうげん しびり
能「土蜘蛛」狂言「痺」

- 小学校・中学校を対象に本物の舞台に触れる機会を提供し、子供たちの豊かな発想力やコミュニケーション能力の育成と鑑賞能力の向上につなげるための事業です。
- 開催校を巡回して体験を主体とした「ワークショップ」と「能・狂言」公演を二日間にわたって行います。
- 今回は、狂言「痺」と能「土蜘蛛」です。

主催 文化庁



【能楽ワークショップと能・狂言公演】

小学校・中学校等で一流の文化芸術団体による能楽巡回公演を行うことにより、子供たちの豊かな発想力やコミュニケーション能力の育成と鑑賞能力の向上につなげることを目的とし、開催校を巡回して体験を主体とした「ワークショップ」と「能・狂言公演」を二日間にわたって行います。今回の公演は、狂言「痺」と能「土蜘蛛」です。

能楽とは

能楽とは、「能」と「狂言」を合わせて能楽といい、600年以上前から続いている日本の伝統芸能で、2001年にユネスコの無形文化遺産に指定されました。能は能面を付けた主役の「シテ」、脇役の「ワキ」、狂言の役者が担当する「アイ」などの登場人物と、楽器演奏（笛 小鼓 大鼓 太鼓）を担当する「囃子」、合唱（コーラス）を担当する「地謡」とで繰り広げる独特の歌舞演劇です。

◆ワークショップ

＜公演の前に学校に伺い、参加体験型の事前の講座です。＞

- 能はいつごろ、だれが作ったのか？
- 能の役者の役割 シテ、ワキ、囃子、アイ、地謡など
- 摺り足、能面を付けての摺り足（視野の狭さ）、謡（土蜘蛛の一部）の体験
- 能「土蜘蛛」の胡蝶と頼光の練習（生徒にお願いする予定です）

◆演目のあらまし

●狂言「痺」のあらすじ

急に客が来ることになったので、主人は太郎冠者に和泉の堺まで着を買いに行くように命じる。太郎冠者は行きたくないの、仮病をつかい「しびれ」が切れたと大げさに痛がる。主人が「まじない」で直そうとすると、太郎冠者は自分には効かない、この「しびり」は親から譲られたものだという。

仮病に気づいた主人は、伯父から使いが来て、今夜ご馳走をするから太郎冠者も同行するようと言われたが、太郎冠者が「しびり」で動けないので次郎冠者を連れて行くという。太郎冠者はそれを聞いて、せっかくのご馳走になる機会を逃しては…自分の「しびり」は宣命をふくめれば治ると言い出し、治ったと飛び跳ねる。主人がそれなら堺へ行けと命じると、また「しびり」が起こったと言って主人に叱られる。

●能「土蜘蛛」のあらすじ

源頼光が原因不明の病に伏していると、侍女の胡蝶が薬を持って見舞いに来て励ますが思い沈むばかり。やがて夜更けに頼光のもとに怪しげな僧が現れ、蜘蛛の糸を投げかけるが、頼光に切られて逃げ去る。頼光の家来が駆けつけ、血の痕を追うと葛城山に辿り着く。すると岩陰から土蜘蛛の精が現れ、蜘蛛の糸を投げて頼光の家来をさんざんに苦しめるが、最後は切り伏せ退治される。

土蜘蛛は、樹木から地下に向かって巣を作り、虫を絡め取って食べる蜘蛛の一種。「土蜘蛛」とは、昔からその土地に住んでいて、新しく支配者になった大和朝廷に服従しなかった人たちのこと。



ワークショップ（豊川市東部小学校）

【令和4年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－実施条件等確認書①】

ID	B24	分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽	ブロック	B	区分	A区分
公演団体名	公益財団法人 梅若研能会				制作団体名	公益財団法人 梅若研能会			

① 会場条件等についての確認

項目	必要条件等							応相談
控室について	必要数 *	1室	条件	昼食用の部屋23名(舞台裏の楽屋スペースとは別に必要となります)				可
搬入について	来校する車両の大きさと台数 *			バン	1台	大型バス	1台	可
	上記車両について「応相談可」の場合、内容詳細			舞台資材運搬と搬入				
	来校する車両の内、横づけが必要な車両の大きさ			バン(1t) 1台				可
	搬入車両の横づけの要否 *			不要(雨天のみ、雨に濡れないような経路が必要)				可
	横づけができない場合の搬入可能距離 *			30m以内				可
	搬入経路の最低条件			雨天の場合、校舎内を経路として使わせていただきたい。				可
	理由			資材が濡れると舞台設営が不可となるため				
	設置階の制限 *			問わない(エレベーターがあれば3F可)				可
	搬入間口について 単位:メートル		幅	2M	高さ	2M		可
WSについて	参加可能人数	原則として10~200程度まで(相談可)						可
	学年の指定の有無 *	なし	指定学年 *				可	
	所要時間の目安 単位:分	100分						可
本公演について	会場設営・本公演・メインプログラムの所要時間		※「出演希望調書」内「会場設営の所要時間(タイムスケジュール)」の目安を御参照ください。					
	鑑賞可能人数		10~600名程度とするが、学校の生徒数に応じて対応可能					可
	舞台設置場所 *		フロア					可
	舞台設置に必要な広さ 単位:メートル	幅	17M	奥行	11M	高さ	指定なし	可
	体育館の舞台を使用する場合の条件	舞台袖スペースの確保 *			要(空きスペースがなくても実施可能)			可
		舞台袖スペースの条件 *			右袖部分に多少あれば良い			可
		緞帳 *	不要		バトン *	不要		—
	遮光(暗幕等)の要否 *		不要	理由				—
	ピアノの調律・移動の要否 (調律費・移動費は経費対象外です)	指定位置へのピアノの移動 *	不要	※指定位置は会場設置図面にて御確認ください。				—
		ピアノの事前調律 *	不要				—	
	フロアを使用する場合の条件	バスケットゴールの設置状況 *	格納されていれば可				可	
	公演に必要な電源容量		特になし	※主幹電源の必要容量				可
	その他特記事項							応相談
舞台設置の広さは会場に応じて柔軟に対応する。							可	

会場図面(表記単位:メートル)

搬入間口について	幅	2M	高さ	2M
搬入車両の横づけの要否		不要(雨天のみ、雨に濡れないような経路が必要)		
横づけができない場合の搬入可能距離		30m以内		

※搬入に関する条件の詳細については、図面上の表にて御確認ください。

